

経済為替ニュース

SUMITOMO MITSUI TRUST BANK, LIMITED FX NEWS

第2130号

2012年09月24日(月曜日)

《 plunging Chinese stocks 》

先週は日銀の追加緩和などいろいろありましたが、私が注目したのは日中の対立の影で進む中国株の下落でした。先週一週間で中国株は代表的指標で4.6%下落した。木曜日が引値で一番安かったが、金曜日にも僅かな反発にとどまった。週間4.6%の下落というのは、一年ぶりの大幅な週間下落幅。既に中国の株価は3年半ぶりの安値水準にあるが、それに加えての先週の大幅安である。

要因はいくつも指摘されている。中国で一番信頼が置ける経済統計と言われる電力消費量も冴えない動きだし、鉱工業生産のいくつかの指標も悪い。またこの週末には中国でのダイヤモンド装飾品の売り上げ伸び率の大幅鈍化などが公表された。つまり一言で言えば、「中国の景気は良くない」ということだ。中国は10兆円超の景気刺激策を用意したが、それによって中国経済が再びジャンプスタートする気配はない。

まだ日程は発表されていないが、10月の後半に指導部交代を控えていることも市場関係者、投資家の間で懸念材料となっている。習近平の主席就任は間違いないと言われているが、その本人が9月に入って2週間近く全く公的な席から姿を消した。「水泳で怪我をした」というのが公式な発表だが、「裏で権力闘争が進んでいるのではないか」との見方もある。実際に壮絶な権力闘争が行われている、と言われる。次期首相についても李克強との説が強いが、最終的に決まったわけではない。

もう一つ中国市場にとっての大きな懸念材料になっているのは、政治先行で進む「日中対立の激化」だ。この問題については先週も取り上げたが、中国側の設けたハードルは高い。中国が求める「尖閣国有化の撤回」を日本は絶対しない。騒ぐが何も日本から出てこない中で、今の中国政府ができる事は「日本に対する嫌がらせ」だけである。しかしその「嫌がらせ」は、中国が必要とする日本の資本や技術が中国に今までほど来なくなる危険性を示す。それは市場としては嫌でしょう。

10年も文化大革命をやった国ですから「政治優先」なのは分かるが、当時は無かった株式市場が今の中国にはあって、そこに中国の富裕層は大きなお金を置いている。既に中国に対する各国の直接投資は、日本を除けば減少傾向にある。それは中国の労働賃金が必ずしも世界のレベルから見て安くなってきたこと、特にアメリカの企業にあってはドル安の効果もあり、「諸条件を勘案すれば、米国内で生産した方が有利」という状況が生まれているからだ。

これだけの騒動があつて、今後日本の対中投資が増えることはあまり予想されない。資本が来ないと言うことは技術も来ないと言うことだ。中国はもともと年金制度が一部の都市労働者にしかなく、非常に貯蓄率の高い国だ。つまり内需は弱い。加えての貧富の格差拡大だ。極端に言えば「富める者は既に需要を満たし、貧しい者は買えない」という状況の中で、内需が大きく伸びる環境はない。頼りは外需だが、主要な輸出先であるヨーロッパの景気はここ当面駄目だろう。ということは、中国経済には出口が見えなくなっているということだ。

これでは中国の株価が「上がる」と考える方が無理だ。今の中国の株価は2009年2月9日以来の安値にある。去年は22%下落し、今年もこれまでに7.8%下落した。今年の下落の半分が先週に起きている事を考えれば、「日中間の対立激化」が中国株に対する懸念増大の主因であることは確かだ。「China's market has lost two-thirds of its value since it peaked in late 2007」(ウォール・ストリート・ジャーナル) というなかで、中国は日本との関係で危ない橋を渡っていると言える。

《 higher yen ? 》

もっとも相手国の日本の株価も冴えない動きだ。先週はニューヨークなど各地の株価も「上げ一服」で目立たなかったが、市場に対する私の印象としては「日本株は弱い」というものだ。それはそれで、日本と中国の経済は複雑に絡み合っているのに、「一方だけが駄目」ということはない。日銀が追加緩和をしても要するに「FRBの後追い」であつて時期的には驚きがあつても、中味に迫力はない。

株式市場の論理から言うと尖閣問題を巡っては「新たな棚上げ」に日中が合意するのが一番だと思われるが、今の両国政府はその知恵を持たないようにも見える。感情が先行する状況を、市場は懸念を持って見つめていると言える。それは為替市場にも良い影響を与えないでしょう。今後あり得るのは「元安」であり、それとは直接関係はないものの潜在的には「円高」圧力です。今朝のドル・円相場は78円15銭前後で、77円台が目前である。

今週の主な予定は以下の通り。

- | | |
|----------|--------------------------|
| 9月24日(月) | 日銀金融政策決定会合議事要旨(8月8日・9日分) |
| | 8月チェーンストア売上高 |
| | 米8月シカゴ連銀全米活動指数 |
| | ウィリアムズ米サンフランシスコ連銀総裁が講演 |
| 9月25日(火) | 8月企業向けサービス価格指数 |
| | 米7月S&P・ケースシラー住宅価格指数 |
| | 米8月コンファランスボード消費者信頼感指数 |
| | 米7月FHFA住宅価格指数 |
| | 米9月リッチモンド連銀製造業指数 |

	プロッサー米フィラデルフィア連銀総裁が講演 ベトナム7-9月期GDP
9月26日(水)	米8月新築住宅販売 エバンス米シカゴ連銀総裁が講演
9月27日(木)	米新規失業保険申請件数 米8月耐久財受注 米4-6月期GDP(確定値)
9月28日(金)	8月全国・9月都区部 消費者物価 8月家計調査 8月労働力調査 8月商業販売統計 8月住宅着工統計 スペイン個別銀行の資産査定結果公表 スペイン2013年度予算案提出 ユーロ圏9月消費者物価 米8月個人所得・消費 米8月PCEコア・デフレーター 米9月シカゴ購買部協会景気指数 米9月ミシガン大学消費者信頼感指数(確定値)

《 have a nice week 》

週末はいかがお過ごしでしたか。久しぶりの本格的な雨でした。私はシルクロードという雨の少ない地域に行っていたせいもあるのでしょうか、「一ヶ月ぶりの雨だ」と思いましたし、「これで皇居のお堀の水も少しは綺麗になるだろう」と考えました。9月の中旬などは場所によっては臭いがちょっと我慢出来ないレベルに達していましたから。

その皇居の近くの東京駅。週末は以前取材したことがあるプロジェクトマップを見に行きました。修復完了記念で夜の8時台に丸の内駅舎を対象に実際に行われるというので。大きな、複雑な対象で実際にやるとどうなるのか見たくて。

もう凄い人でした。車道にまで人が溢れて、警備の人が「車道には出ないで下さい」とわめく中での開演。さすがに対象が大きいし、馴染みの建物が相手だけに「こんなに変わるのか」と非常に面白かった。私は結構いいポジション、つまり全体像が入るような程度駅から離れて、しかしそれほど遠くではない場所です。ずっと10分強撮影をしていました。とっても良く撮れて最初フェイスブックにアップしようとしたのですが、何回トライしても、速い回線でもやっても駄目。

一日たって思い出しました。iOS6では写真や動画が簡単にユーチューブにアップできるようになったことを。でやってみたら出来ました。私が最初にユーチューブに投稿した動画

は、「http://www.youtube.com/watch?v=_0o-MzaaMLI&feature=plcp」にあります。現場の緊張感、人々の頭、歓声、そして警備員の必死の声が入っていますからそれが邪魔だと考える方もいるでしょうが、ずっと全体像を撮ったので、全体の動きが分かるはずです。

それでは皆さんには良い一週間を。

《当「ニュース」は三井住友トラスト基礎研究所主席研究員の伊藤(E-mail ycaster@gol.com)の相場見解を記したものであり、三井住友信託銀行の見通しとは必ずしも一致しません。本ニュースのデータは各種の情報源から入手したのですが、正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。また、作成時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。》